

令和6年度広島市民賞受賞者名簿

[個人] (5名)

(敬称略)

番号	氏名	住所	功績概要
1	くろだ ひろき 黒田 博樹	広島市 中区	<p>同氏は、平成9年(1997年)に広島東洋カープに入団し、最多勝利と最優秀防御率のタイトルを獲得するなどエースとしてチームを牽引し、平成20年(2008年)にアメリカのメジャーリーグ球団に移籍してからも、5年連続2桁勝利を挙げるなど活躍した。</p> <p>平成27年(2015年)には、広島への強い思いから、メジャーリーグ球団からのオファーを断り、古巣広島東洋カープに復帰、平成28年(2016年)にはプロ野球史上2人目となる日米通算200勝を達成するとともに、広島東洋カープ25年ぶりのリーグ優勝に大きく貢献した。</p> <p>こうした功績が認められ、令和6年(2024年)1月に野球殿堂入りを果たした。</p>
2	あおやま としひろ 青山 敏弘	広島県 安芸高田市	<p>同氏は、平成16年(2004年)にサンフレッチェ広島に入団し、平成24年(2012年)、平成25年(2013年)、平成27年(2015年)のJ1リーグ優勝の際にはチームの主力として、精度の高い縦パスや安定感のある守備でチームの勝利に大きく貢献するとともに、3度目の優勝の際にJ1リーグMVPを獲得した。</p> <p>同クラブ最長となる21年という長いキャリアにおいて、J2降格や度重なる怪我を乗り越え、クラブ史上最多となるJ1リーグ通算444試合、J2リーグ通算36試合に出場し、「広島愛」を原動力にプレーし続けた。</p>
3	よしおか みほ 吉岡 美帆	神奈川県 藤沢市	<p>広島市西区出身の同氏は、平成25年(2013年)にベネッセレーシングチームに所属し、ヨットのバランスを取るクルー役として帆を操り、平成30年(2018年)の世界選手権女子470級で日本人女性初となる優勝や、リオデジャネイロ2016オリンピックに出場以降2大会連続での入賞など、数々の国際大会で優秀な成績を収めている。</p> <p>そして、パリ2024オリンピックでは、岡田奎樹氏とペアを組み、新たに男女混合種目に変更された男女混合ディンギー種目470級に出場し、同競技における日本人としては20年ぶりの銀メダルを獲得した。</p>

番号	氏名	住所	功績概要
4	はせがわ 勇基 長谷川 勇基	東京都立川市	<p>広島市南区出身の同氏は、20歳の時にリハビリの一環として車いすラグビーを始め、平成30年（2018年）から日本代表に定着した。</p> <p>水球で培った身体能力をいかし、タックルなど激しい守備で縁の下の力持ちとしてチームを支え、東京2020パラリンピックで銅メダルを獲得するなど、輝かしい成績を残した。</p> <p>そして、パリ2024パラリンピックでは、決勝においてリードされた第2ピリオドから出場し、持ち味の守備力をいかして相手の攻撃を防ぎ、味方のトライにつなげ逆転するなど、チームに勢いをつけ、同競技史上初となる金メダルの獲得に貢献した。</p>
5	いけがめ かずこ 故 池亀 和子	—	<p>原爆死没者名簿の記帳は、「本市職員（退職者を含む。）であり、かつ被爆者である者」が行っており、同氏は、昭和20年（1945年）8月6日、当時3歳のときに観音本町で被爆した後、広島市役所に入庁し、昭和60年（1985年）から原爆死没者名簿の記帳を始めた。</p> <p>令和6年（2024年）の記帳開始後に入院を余儀なくされ、医師から余命1ヶ月の宣告を受けたにもかかわらず、闘病生活を送りながら、亡くなる11日前の平和記念式典前日まで、33年連続35回の長きにわたり原爆死没者名簿の記帳に尽力した。</p>